

6 前の時間に習ったことをほとんど忘れるF女(5年生)

学習・行動上の特徴

注意集中がとぎれやすく、動作が緩慢で次の行動に移るのに時間がかかり、見通しをもった行動がとりにくい。

作業が雑で、文字も乱雑。式の写し間違いや、自分で書いた文字の読み違いも多い。

話す内容が貧弱で、まとまりのないことが多い。話したいことだけを話すので、会話として成り立ちにくい。

音読では、文節での「区切り読み」がむずかしい。文章では、助詞や助動詞、語句が正しく使えない。

小数や分数の計算学習で獲得した操作手順も、次の時間にはほとんど忘れている。

おしゃべりの好きな明るい女の子だが、食生活に偏りがあり、過食気味。肥満体型でスムーズに動けない。

特徴の考察

～ 本児の場合、視覚認知や注意集中に困難があると考えられる。そのため、注意の自覚的な調整ができず、記憶における弱さも併せて見通しをもった行動が、とりにくくなっている。

そのことが、基礎学力全般に影響しており、低学年から積み重なって現在の学習の遅れとなっていると考えられる。

家庭や学校でのストレスが、食生活の偏りや過食などにつながり、悪循環となっている。

援助・指導の方針

本児は、言語性LD¹⁴と注意・記憶性LD¹⁵が重複しているとみられる。学習の遅れや社会性においてみられる困難は、二次的な症状と考えられる。

保護者が、これまで通級による指導に消極的であったため、検討の結果、担任外教員の授業時間内の別室指導(いわゆる「とりだし指導」)による算数の補習から、指導を始める。

家庭において本児が、他の兄弟と異なる扱いを受けているなどの疎外された状況にあることが明らかになっており、保護者と連携し、本児の現状について共通理解を図り、情緒的に安定させたい。

留意点

本児については、別室での「とりだし指導」に対しての“ためらい”を示しており、その面からも他児との複数での指導が有効である。本児の自尊心に配慮し、学級集団への指導が必要である。

教科指導に際しては、問題をとく途中で、小刻みに区切って計算の仕方や考え方をメモさせるなど工夫したり、できるだけ図や具体物を示して、指導を行いたい。

本児の学校や学級内での不適応状況の軽減のために、学級担任との連携や、全校職員の理解と配慮のもと、指導体制の確立を図りたい。

援助・指導例

(指導担当) 担任外教員

(指導形態) 小集団指導 2名。算数の時間に、とりだし指導

ア ねらい

算数面での学習の遅れを補い、学力の向上を図る。

学習の援助を通し、担任や担当者と信頼関係を結び、情緒の安定を図る。

イ 内容

算数の指導

できるだけ具体物や絵を用いて、基礎的な計算の面から指導する。また、記憶力や集中力を育てるために、文章題を聴写させたり、ノートの使い方を工夫させる。〔左下図〕

本児及び母親のカウンセリング

「とりだし指導」や学校生活の全体を通じて、なるべく多く接する時間を設け、何でも話せる信頼関係を築き、情緒を安定させるようにする。また、母親とも本児について話し合うことによって、家庭環境の面からも改善を図る。

ウ 指導経過

校内障害児教育部会での検討

[夏休み前半]

補習指導(2名の指導)と、同時に保護者との話し合い

[夏休み後半]

「とりだし指導」

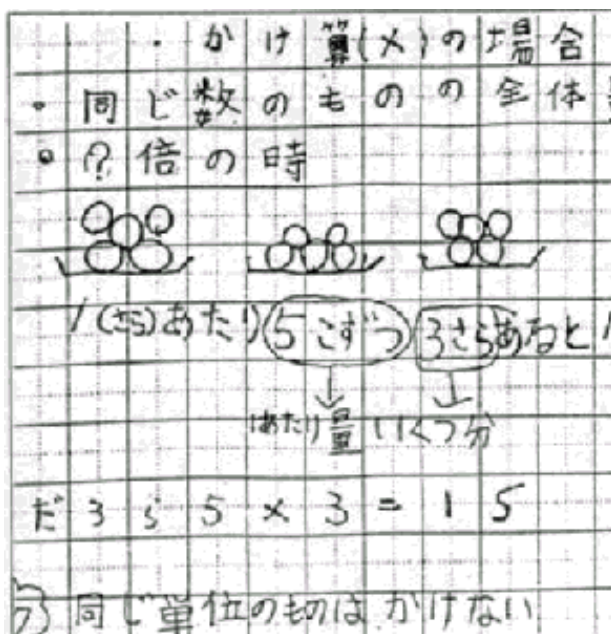
[2学期初め]

算数の授業時に2名が別室指導を受けることについて、担任が学級指導を行った。その結果、他の児童からは「がんばってこいよ!」と声かけられる雰囲気できた。

指導後の変化及び考察

ア 変化

「前に担任の先生が言ったはったのは、このことか...」というつぶやきが多くなり、本児のペースに合わせ繰り返し練習することによって、学習内容の定着が次第に見られた。正しくできることによって自信がつき、自分から進んで計算ドリルをこなそうとする積極的



な姿勢も見られるようになってきている。またノートを活用することによって、分からないことを自分で調べることができるようになり、家庭学習も少しずつではあるが増えてきている。

イ 課題

ゆっくりと時間をかけることによって理解できるが、間をおいた場合(長期記憶)には、忘れることが多いので、その後の指導が課題である。また、「読み・書き」や社会性の困難についても、今後、援助を行う必要がある。

学級における人間関係も、さらに広げさせていきたい。